

いつも私のコラムをご覧頂きましてありがとうございます！

さて今回は前月号で登場した私が初めて就職し修業した美容室のオーナー(先生)のお話。

当時その先生はまあまあ有名な先生でダブルストロークカットと言って両手にシザーやハサミをもってシザーやハサミを振りながら髪を吹き飛ばすように切る技術の持ち主でそのカットしている姿がカッコよくて結構憧っていました。仕事には非常に厳しい先生でしたが色々な事を教わりましたし色々なチャンスをもらい早くから店長経験もさせて頂きそれらの経験があったからこそ今こうしてお店を経営出来ていると思うので先生には本当に感謝しております。

美容師になったらほとんどの人が最初の目標はカットが出来るようになってお客様を担当することで私もそのような思いで就職したのですがどうもなかなかレッスンが進まず5人いた同期の中でなにかにつけていつもテストに合格するのが一番後で、そうなると段々仕事やレッスンが嫌になってきてレッスンをさぼるので益々皆から遅れていく始末、どうどう他の同期は皆カットのテストに合格してスタイリストになったのに私だけがいつまでも合格出来ず同期の担当するお客様のアシスタントを勤めるはめとなり、悔しさと情けない気持ちで一杯でなんか自分は美容師にむいてないのかなあとつい悩みながら働いていました。

それからも幾度となくテストに落ちまくっていた私でしたが多分かなりの温情入りでいつもテストをしてくれていた店長から合格を頂きなんとか晴れてカットに入れるようになりちょっと仕事が楽しくなりかけてきた時に先生の登場です。

当時お店は5店舗あり私が勤めていたお店だけちょっと離れていたので先生は滅多に来なかったのに、ある日お客様をカットしていたら後ろに人の気配が…

ぱっと振り返るとなんと先生が腕組みして私の仕事をじっと間近で見ているではありませんか(;`Д`)

緊張というものではありません、恐怖すら感じるこの状態でガタガタと手が震えながらもなんとかカットを続けていると先生が「あ～あ、なんでそこ切ったん？」とか「あっ、今のは失敗やな！」とか遠慮なくどんどん言ってくるのです、私は完全に顔がひきつっていましたがもっとひきつっているのは切られているお客様です、後でわかったのですが私がカットに入っていると聞きつけた先生は私の仕事を見にきたわけです。案の定、営業後店長に呼びだされ「岩崎君、先生がやっぱりまだ無理やからカット入らすなって、まあ子供くらいならいいけど」と告げられ再びひどく落ち込む毎日を送ることになったわけです…

そして現在、あの頃の私と同じように思い悩み頑張っているスタッフを見ているとその気持ちが痛いほどわかるのですが、諦めなかったから今こうしてコラムを書くことができるわけです。

『人間は負けたら終わりなのではない、辞めたら終わりなのだ。』

